（前回号数まちがえました…）

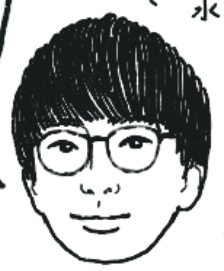
9軒長屋の進捗を町内にお知らせしつつ、町を学び、楽しむお便り「西鶴賀便り」（月刊）2024年6月30日発行　第29号

西鶴賀便り

発行
長野市中心市街地活性化協議会
長野県建築士会
ながの支部
協力
西鶴賀町

9軒長屋のNEWフェイス
古着屋 嬰（えい）

旧グロアマ店舗に4月から「古着屋嬰（えい）」がオープン。「嬰」は音楽記号井（シャープ）の漢字表記で、お客さんへ「ファッションセンスを半音上げる服」を届けるとともに、自分たちもシャープに尖っていきたいという想いが込められています。経営するのは県立大学グローバルマネジメント学部4年生のふたり。グロアマ福島さんの後輩で、古着が好きだったことと グロアマの場が閉じるのがさみしくて引継ぎの手を挙げたとか。店内には柄や型、生地感に特徴があるシャツやスラックス、ネクタイなどが並んでいます（2階はハイブランドの古着）。西鶴賀の印象は『昔ながらの雰囲気が残るエモい（※エモーショナルな）町』『客と店主が「おう」「また来てね」みたいな会話をしている人情味を感じる町』。「お金がなくて最初に削っちゃうのが食費なんですよね…」と店巡りはこれからしてみたいとはにかんでいました。嬰の営業は月・水・土・日の12時～でどちらかが店番をしています。



小関一矢さん
- 静岡県焼津市出身
- マイペース
- 休日は寝る＆料理

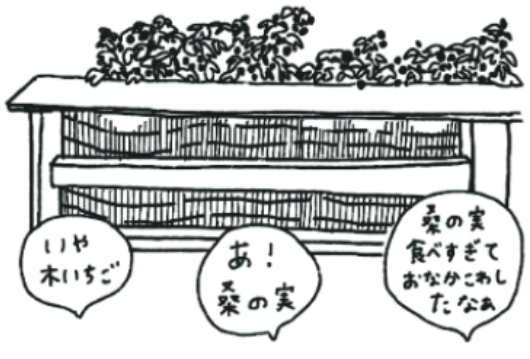
お客さんに押し売りはしないけど、なんでその服を選んだ（店頭で販売している）のかは説明したいなと思ってます。

中川亮さん
- 静岡県浜松市出身
- 散歩と家具と本好き
- ハイブランド古着担当

店を経営する緊張感は貴重な体験だしおもしろくもあります。お客さんに「いいじゃん」と言ってもらえると、やっぱりすごくうれしいですね。

西鶴賀町若連会主催の町内交流企画
ガーデンパーティ
7月28日（日）12時～ @竹山稲荷神社境内

ある日、路地で…

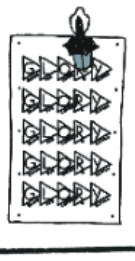


塀からのぞく立派な木いちごを見かけ、C9の綿貫さん久米さんと三者三様の想いをめぐらせました。

鶴めし記

GROLYの日替り定食

「肉うどん定食」のネーミングから安易に想像するなかれ。ごはん山盛りのからあげ丼からデザートのアイスキャンディーまでボリューム満点のラインナップが次々と運ばれてくる。値段が一番びっくりだけど、値上げできなくなったら申し訳ないのでひみつ。



つばめ長電タクシー 滝沢さんの歴史コラム
『祇園祭のルーツ』

今年も日本三大祇園祭の一つともいわれる「ながの祇園祭（※1）」が開催されます。平安時代の作家、清少納言は「枕草子」で『心ちよげなる（※2）もの、御霊会（ごりょうえ）の馬長（祭り行列）、ふりはた（行列先頭の「幡」）取り持たる者』と祇園祭を謳っています。

※1：弥栄（やさか）神社の御祭礼

※2：気分がよい、心地よい

祇園祭は、西暦863年の中越地震、864年の富士山貞観大噴火、867年の阿蘇山噴火869年の三陸沖大地震など、毎年つづいた大災害や疫病で出た大勢の死者の魂を鎮めるために、時の清和天皇が869年に京都で開催した御霊会（ごりょうえ）がはじまりです。
室町から江戸時代にかけて華麗で荘厳な行列を諸藩でも行うようになり、今でも須坂市や松代町で行なわれています。

ながの祇園祭は「善光寺門前町」の各町から屋台が曳き出され、町衆の勢いを競い合いながら開催されています。西鶴賀町も昭和30年代の御祭礼で育成会が中央通りを練り歩く様子が写真で残っています。夏の風物詩を"心ちよげ"に楽しみましょう。

昭和32年 五十嵐さん宅前で踊りを披露

昭和36年 中央通りを出し物を引いて参列する育成会

@アーカイブやお知らせなどが載っています

西鶴賀エリアリノベーションHP

西鶴賀キッチン＆スペースHP